

新生三田町・三田市の誕生とまちづくり

講師：三田市生涯学習課市史編さん担当 印藤昭一

はじめにー三田の現代「史」と『三田市史』現代資料ー

現代については、つねに「歴史」学の対象になのかという疑問がついてまわります。それは研究の対象となる資料の選択と、事実関係に対する評価がともに「時間の経過」を経ていないため、客観性の担保がむずかしいからです。また当事者の様々な利害関係と関わってくる場合もあります。

しかし「三田市史」ではあえて現代の資料集作成に取り組み、市の発足から現市政の発足までを視野に入れた、類例の大変少ない資料集を作成しました。しかし項目設定や資料の取捨選択にはさまざまな観点がありますので、市民の皆さまから忌憚のないご意見や感想・ご質問をいただくことを期待しています。

歴史の研究では時期（時代）の区分が課題となり、また何に基づいて区分をおこなうかということが大きな課題です。市史の現代資料では市のあゆみを「ニュータウン」計画とその前・後に大きく 3 区分する考え方を基本としました。

新生三田町・三田市の誕生とまちづくりの課題ー合併条件の検討からー

昭和 33 年 7 月 1 日に誕生した三田市の前身は有馬郡三田町です。これはいわゆる昭和の大合併によって昭和 31 年に新設された町で、現在の三田地区に該当する明治以来の三田町とは全く別個の町です。

その後、同 32 年に相野町を編入し、翌年市制が施行されました。ところで三田町の広報や「伸びゆく三田」の紙面の印象では、市庁舎の完成が最も取り上げ方が大きく、次いで相野町の編入（「有馬郡の一本化」）で市制施行はかなり地味な扱いとなっています。その背後には誕生前後の市をとりまく様々な課題がうかがわれます。

資料 3 の三田町建設計画は、相野町編入後のものですが実質的には合併条件を引き継いだものです。今回注目したいのは、①旧相野町に支所をおくことになった「特殊的事情」と②庁舎の新築方針に関する項目です。①については支所と出張所の取扱い事務の差異から、地域福祉と産業経済がキーワードと推定されますが現時点では他に資料がなく不明です。②は実は昭和 31 年の三田町発足時の合併条件から引き継がれた文面ですが、冒頭の「旧三輪町の」という 4 文字が削除されています（市史第 6 巻 171 号参照）。

資料 11 は市役所の位置が決定された際の議会会議録です。会議録は口頭で述べられたことを筆記した記録であるという点で、大変特徴のある資料となります。

この会議録からは市役所の位置について計 3 案あったことがわかります。結果的に選ばれなかった 2 案の位置は、おそらく会議参加者の間で周知されていたためか明言されていませんが、新聞報道から三田本町駅前と屋敷町の旧三田町役場跡であったことがわかります。この 2 案については先にみた「旧三輪町の」の 4 文字に抵触することになりますので、4 文字削除の背景が注目されるところです。また 17 番議員の発言からは、都市計画道路の建設が事実上の付帯条件であったことがわかりますが、当時よく知られていた三田地区の譲歩を示すこの条件が公文書として明示されているのはこの会議録の他には知られておらず、歴史資料として貴重なものです。なおこの会議での市長の発言は、当時構想されていたまちづくりの大枠がうかがえる点で興味深い情報です。